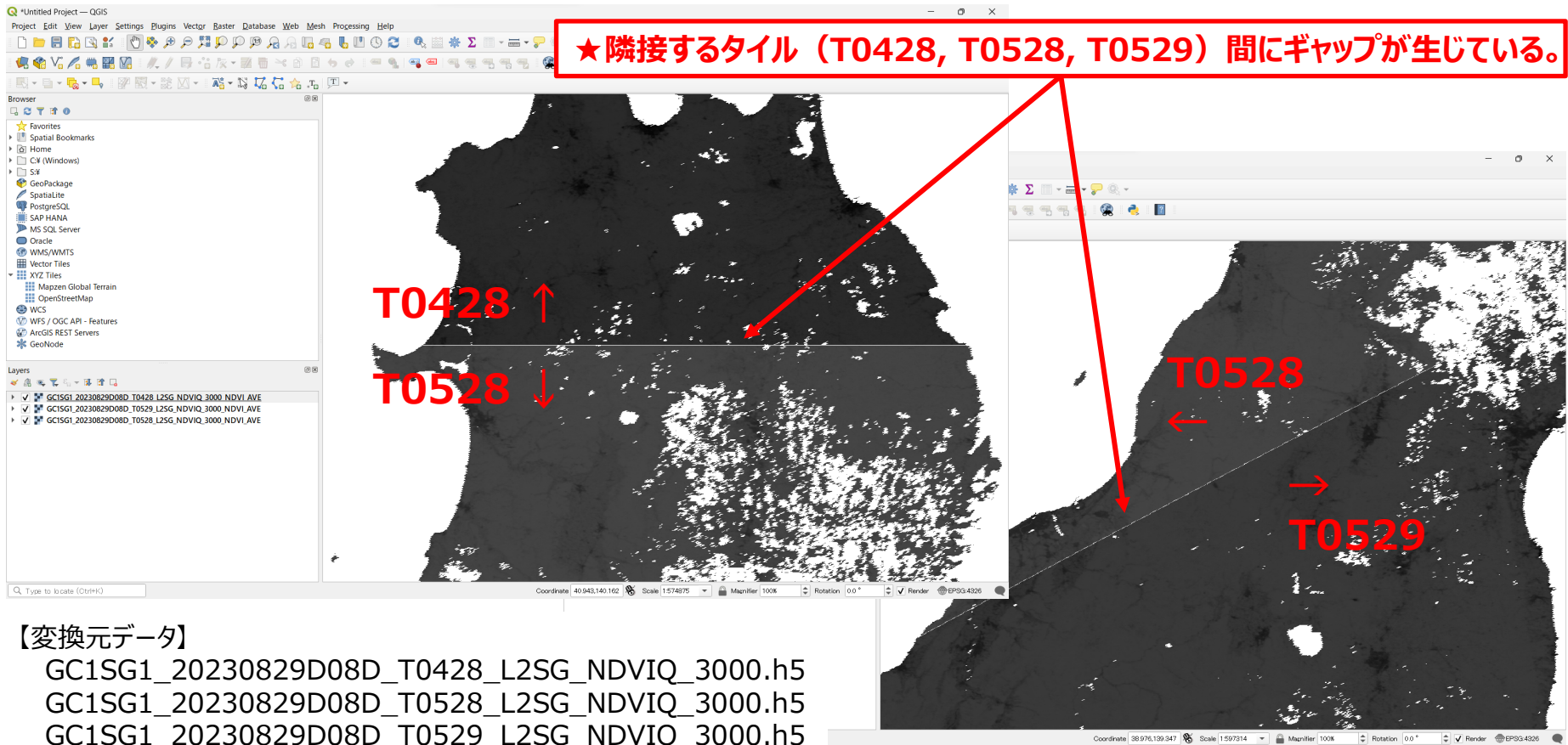


GeoTIFF変換された隣接するL2タイルプロダクトをギャップなく表示するには

2026/1/22

【発生事象】

- G-Portalから提供されている「[SGLI地図投影・GeoTIFF変換ツール](#)」を使用して、GeoTIFF変換された隣接するL2タイルプロダクトを表示した際に、タイル間にて“ギャップ”が生じる場合があります。



【原因】

- GeoTIFF変換時において、リサンプリングオプションの指定をしていただく必要があります。
- 「[SGLI地図投影・GeoTIFF変換ツール](#)」にてL2タイルをGeoTIFF変換する場合、リサンプリング方法のデフォルト（オプション指定なし）は **BL（Bi-Linear）** となっています。
- L2タイルをBLで処理すると画像端が無効画素となり、隣接するタイル間（境界）にギャップが生じることがあります。
- 従って、GeoTIFF変換した隣接するL2タイルをギャップなく表示するためには、**リサンプリング方法（NN：Nearest Neighbor）を指定していただく必要があります。**

注意事項：

L2 タイルでは、リサンプリングオプションをデフォルトの BL で処理すると画像端が無効画素となり、隣接タイルをモザイクする際は境界にギャップが発生することがあります。その場合は同オプションに NN を指定してください。

※ 取扱説明書からの抜粋

- 本ツールを用いたコマンドと表示例を次ページに示します。

【コマンド例】

```
$ SGLI_geo_map_win.exe  
GC1SG1_20230829D08D_T0528_L2SG_NDVIQ_3000.h5 -d  
Image_data/NDVI_AVE -r 0
```

オプション指定
(リサンプリング)

-r RESAMPLING

リサンプリング法 (NN, BL, CC) を RESAMPLING に指定した番号で選択します。番号の定義は以下の通りです。

0 = NN 1 = BL, and 2 = CC.

デフォルトはフラグデータの場合は NN、以外は BL です。**L2** タイルプロダクトの処理画像で隣接タイルをモザイクする場合などは、画像端が無効画素となることによるタイル境界のギャップを防ぐために NN を指定してください。

【表示例】

